

平成27年度

学校経営計画（スクールマネジメントプラン）
（ 実施段階 ）

【 分掌（中間評価） 10月末現在 】

京都府立東稜高等学校

平成27年度 京都府立東稜高等学校 学校経営計画（スクールマネジメントプラン）（ 計画段階 ・ **実施段階** ）

学校経営方針（中期経営目標）	前年度の成果と課題	本年度学校経営の重点（短期経営目標）
<p>「真の自己実現にTRY」をスローガンに、教育目標実現に向けたキャリア教育の推進を継続し、生徒が「伸びる」・生徒を「伸ばす」学校を目指す。</p> <p>本府「教育振興プラン」及び「学校教育の重点」を踏まえ、学習指導要領に即して創意・工夫した教育課程を編成し、日々の教育活動の充実に努め、希望進路の実現と、心豊かにたくましく生きる人間の育成を図る。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 地域・生徒・保護者に信頼され、期待される学校として教育活動を推進する。 2 生活規律、学習規律を確立し、「自学」の習慣を定着させ、希望進路実現を図る。 3 部活動を活性化をさせ、府・近畿・全国で活躍する部活動の育成を図る。また、地域諸団体とも連携し、地域スポーツ及び文化の振興に寄与する。 	<ol style="list-style-type: none"> 1 学力向上フロンティア校支援事業における取組を推進することができた。 2 学習の基礎・基本を徹底させ学力の向上を目指す「学びの原点」を活用できた。 3 「サイエンスリサーチシリーズ」・「ヒューマンリサーチシリーズ」を継続実施する等、高大連携の充実を図ることができた。また、大学や地域から社会人講師を招いたり、施設見学するなど、キャリア教育に取組も充実できた。 4 交通安全指導では、交通安全週間に、PTAの役員の方々にも協力していただいた他、地域から様々な情報をいただき、危険箇所については教員とともに山科警察署員との連携を図ることができた。また、醍醐十校区自治連合会交通安全推進委員の方々にも協力していただいて、交通安全キャンペーンを実施できた。 5 学校説明会、ホームページ、「東稜だより」の定期的発行等を通して、情報発信を積極的に行い、中学校や地域社会から本校に対する理解を得られた。 6 部活動加入率は目標をやや下回ったが、全国大会や近畿大会への出場、または吹奏楽部コンクール金賞受賞などの成果があった。部活動加入率を高め、より多くの部で一層の活躍を期待したい。 7 授業公開（授業参観）、研究授業を活用して、授業力の一層の向上を図り、生徒の家庭学習時間の増加や学習力向上を目指したい。 	<ol style="list-style-type: none"> 1 キャリア教育における取組み内容の一層の体系化及び精選。 2 キャリアコースにおける課題整理及び具体的改善策の検討。 3 希望進路を実現するための取組の推進。 <ol style="list-style-type: none"> (1) 日々の授業を柱として、基礎学力の定着、発展的学力の育成を図る。 (2) 進路指導会議を軸とし、各種模試の結果分析等を通して一人一人の状況を把握し、弱点克服のための方策を講じる。 (3) SHRや自習スペースの活用等により学習習慣の定着を図る取組を行う。 (4) ICTを活用した授業に習熟し、「生徒に学力をつける授業」の構築を図る。 4 生徒指導の更なる充実。 <ol style="list-style-type: none"> (1) 家庭と緊密な連携をとり基本的な生活習慣を確立する。 (2) 頭髪加工及び身だしなみに係る生徒指導の徹底を行う。 (3) 生徒会活動、部活動の充実を図る。 5 自他の生命と人権を大切にす意識や態度を培う取組の推進。

評価領域	重点目標	具体的方策	評価		成果と課題
組織・運営	本校における特色ある教育活動を、全教職員の共通認識に基づいた取組に落とし込み、一体感または、支援する心を持って、援助・推進していただける体制づくりに努め、取組体制の充実を図る。	教職員間での挨拶の励行等を徹底する。また、建設的な意見交流を活発にしやすい、各間の連携強化に力を注ぎ、明るく活発な職場づくりを構築するとともに、学校経営方針の徹底と浸透を図る。各事業・各行事等の窓口と役割分担を明確にし、情報の共有化を図り、頑張ろうとする生徒を支援できるように、各分掌間の連携を深め、実践力を高める。	B	B	<ul style="list-style-type: none"> 朝のSHR完全実施と連動して、打合会の簡素化（内容伝達）が定着化しつつある。教職員間の挨拶の励行をさらに推進するとともに、明るく活発な雰囲気のある分掌を広げたい。 全校体制のキャリア教育や特色ある取組に対する窓口を総務企画部内キャリア主任を置くことにより、今後の構想へむけた発信に繋げ、共通理解のもと学校体制づくを推進する。また、向こう10年を見据えた本校の未来像を確立したい。 各種支援の必要な生徒に対する情報の共有化、対応の徹底等は学年部・保健部を中心にして連携が深まっている。
	本校の特色ある教育活動のバランスを図りながら工夫を加え、また、次年度以降を睨み、向こう10年間、地域や保護者から信頼され、期待される東稜高校としての将来構想を具体化し発信する。	次年度以降に向けて、東稜高校の将来構想に繋げ、さらに取組を充実・発展させるために、キャリア教育推進会議、キャリアコース検討会議等を積極的に有効活用する。また、各種事業の継続と発展を図る。	C	C	
教育課程の編成と実施	東稜高校の将来構想に基づき、各コースに対応した特色ある教育課程を編成する。	平成28年度入学生において、各コースにおける生徒の興味・関心・進路希望等に対応した特色ある教育課程を編成する。	A	A	<ul style="list-style-type: none"> 平成28年度入学生において、各コースとも2年または3年生で単位数の整理及び選択科目等の整理をおこなった。特に総合コースにおいては生物概論を必修とし、教科のバランスをとった。 平成27年度入学生においても、同様の一部修正を行った。
	教育課程の実施状況を点検し、評価・反省に基づく改善を行う。	キャリアコースの新構想に関して、各種会議や関連分掌等と協議を深め、特色ある教育課程を研究する。 平成26年度、27年度入学生（1、2年生）における日常の学習状況や進路希望等を分析し教育課程を検証し、必要があれば改善する。	B	A	
学習指導	授業規律を確保し、授業と家庭学習習慣を大切にすることを育成する。	始まりのチャイムから終了のチャイムまでの50分間の授業を大切にする。教科・学年・生徒指導等と連携し、授業規律に課題のある生徒の早期指導に努める。朝SHRを円滑に実施することで、落ち着いた雰囲気のある授業を押し進める。	A	B	<ul style="list-style-type: none"> 今年度から実施している朝SHRは、一部のクラスで欠席が目立つ等課題はあるが、1限目の授業が落ち着いて実施されており成果があった。授業規律では3年生の一部の生徒で課題があり注意を促したが、根本的な解決には至っていない。教務部が中心とした授業の状況調査することも視野に入れて、来年度の準備を進めたい。 基礎補充は定期考査直前の計画実施の他、個別指導も多く実施されているが、成績不振者の減少にはまだ課題が残る。 ICTの有効活用については複数の教科で活用が見られ、京都府総合教育センターの講師により教職員研修会も実施した。 学習状況は進路指導部を中心に分析され、教科主任会議等でも情報共有したが、特にアカデミーコースでは学習意欲の向上と自宅学習の充実が課題である。
	基礎学力の向上を目指し、原級留置・中途退学者を減少させる。	シラバス及び年間授業計画により、指導目標を明確にし、その上にたった教科指導を実施する。基礎・基本の充実及び習得のため、研究授業を通して効果的な指導の方策を研究し実施する。教科と連携し、基礎学力補充の計画的実施とその内容の充実を図る。	B	B	
	「適切な評価」に努め、類・類系、コースに応じた学力の伸長を図る。	教科と連携し、研究授業や研修会等をとおして学力を伸ばす授業や評価についての研究・改善を行う。 アカデミーコースでは土曜授業の円滑な実施に努め、学ぶ意欲と知識を活用しようとする態度を育成する。	A	B	

生徒指導 特別活動	部活動、特別活動や体験学習を通じて、規範意識を確立させ、積極的に社会へ貢献する意欲・態度を養成する。	部活動加入率を男子70%、女子50%以上に引き上げ、次年度以降を見据えて、中学生や保護者から認知される部活動へと活性化を図り、内容を広報するとともに競技力の向上を図る。また、地域中学校との交流をさらに強化し、地域密着型の部活動としてのあり方を検討し、発信する。地域や各関係機関主催の各種行事に生徒会やキャリア系クラスを中心に積極的に参加させる。各種ボランティア活動により一層、積極的に参加する生徒の育成を目指し、全校的な取組みへと展開する。	B	A	<ul style="list-style-type: none"> 生徒会企画の新入生歓迎会、部体験週間を取り入れたことで、本年度の1年生の部活動加入率は、男子78%、女子64%となり目標を上回る加入率となった。この成果を競技力の向上に繋げたい。 また、各種のボランティア活動に多くの生徒と生徒会が積極的に参加し全校的な取組となりつつある。
	基本的な生活習慣の確立を図り、規範意識を育成する。	立門指導、校内・校外巡回指導や身だしなみ指導の効率化と効果向上を図る。「東稜ハイスクール・ハンドブック」の活用と実践を充実させる。駐輪・交通安全指導週間や遅刻指導を通じて、登下校時の自転車通学におけるマナーの向上や授業規律の確保、基本的な生活習慣の確立を図る。学年部との連携のうえ、各学年生徒の特徴を把握するとともに学年アッセンブリー等を活用して、タイミングを逸さない指導（啓発・呼びかけ等）を徹底する。	B	B	
	深い信頼関係に基づく人間関係を育成し、明るく他者を思いやれる望ましい集団を構築させる。	生徒会活動に助言・指導・支援をして各種委員会を積極的に活動させ、質の向上を図る。新入生歓迎会、文化祭、体育祭、生徒総会等の一層の内容の充実と企画提示を図る。	B	B	
進路指導	生徒の3年間を見通した進路指導・進路学習を行う。	計画的に説明会、見学会、体験学習等を実施し、進路意識の向上を図る。あらゆる機会を捉えて、生徒の人間力、将来の社会人としてのマナーの向上を図る。	B	B	<ul style="list-style-type: none"> 3年間を見通した進路LHR計画を各学年部と連携して検討している。各種説明会等を通して時間やルールを守ることの意味や大切さを伝える事ができた。 継続性を大切にした就職講座を実施し、外部機関とも連携して生徒は成長し、希望進路を実現させている。厳しい指導に耐えられず就職講座から早期に去る生徒が出たこと、1学期後半まで自分の進路と向き合えず、2学期から就職希望に転じた生徒が出たことなど就職指導の難しさが認識される。学年部との更なる連携が必要である。 模試等の過年度情報を学年部と共有し資料として役立てる事ができた。 学習合宿、進学補習等も教科の協力を得て実施できた。生徒にとって魅力あるものにするために実施方法も含め改善していく必要がある。
	就職希望者への指導の一層の充実を図る。	就職対策講座の充実を図るとともに、社会常識を身につける指導の徹底を図る。企業訪問等を積極的に行う。	A	B	
	進学希望者へのきめの細かい指導の一層の充実を図る。	実力テスト等の結果を分析し、教科・学年の学習指導に役立てる。	A	B	
		進路補習、学習合宿等を行い、学力の伸長を図る。	B		

人権教育	あらゆる教育活動を通して、基本的 人権を尊重する精神の涵養を図る。	学校や地域の実態に即した人権教育推進計画を年度当初に策定し、全校で推進する。また日常的に計画の実施状況を点検、評価を行い、改善を図りながらの実践を推進する。	A	A	B	<ul style="list-style-type: none"> 各学年1・2学期に人権講演会と人権学習等を実施し学校の実態に即した人権教育が実施されている。 各学年人権担当や教科と連携し、学年の課題について共通理解を図り人権教育に反映させている。 人権学習のまとめを通して、学習効果と課題を検証しているが、「みえる化」をさらに推進する必要がある。また、人権アンケートの実施に向けて機材を整備し、人権月間には実施できるように調整を図っている。
	自己と他者を尊重する豊かな感性を 育み、実践できる態度を育成する。	人権教育会議で人権学習や講演会の企画・立案を行い、関係分掌、教科、当該学年と連携して実施する。 人権を考えるためのアンケートを実施し、その分析を通してよりよい人権学習を構築する。人権学習後に感想文を書かせて、学習効果を検証しながら改善を図る。	B	C		
健康・安全 教育	交通安全や薬物に対しての正しい知識 と理解を深め、規範意識の向上と 道徳観を育成する。	1年生対象に「薬物乱用防止講演会」「非行防止講演会」「情報モラル教育」を実施する。 山科署交通安全課、醍醐十校区自治連合会、PTAとの連携を密にし、登下校時の交通安全指導(特に自転車走行のルール遵守)を推進する。 通学別に自転車危険箇所通学生徒対象に事前指導を徹底して、安全走行マナーの習得を推進する。	A	B	B	<ul style="list-style-type: none"> 薬物乱用防止講演、情報モラル講演を実施して知識と理解を深める事ができた。 山科署交通安全課、醍醐十校区自治連合会、地域の交通安全推進委員やPTAと連携して、交通安全推進指導を推進しているが、著しくルール遵守の姿勢が向上したとは言い難い。生徒会が通学路マップを作成、また通学路アンケートを実施した。今後、生徒の通学路状況を把握して危険箇所を生徒に提示できるように、まとめを啓発していきたい。
	支援を必要とする生徒に対する情報 を教職員が共有し、協力して具体的 な支援ができる体制を作る。	教育支援会議で生徒の情報を把握し、職員会議などで共有する。 教職員によるチームや外部機関との連携によって、個々の生徒に応じた支援をする。 教育相談や特別支援についての理解を啓発する。	A	B	B	<ul style="list-style-type: none"> 教育支援会議は今年度11月までに5回開催し、各回各分掌代表、該当担任より、1人ひとり状況の把握に努めている。また、特定の生徒については、地域支援センターうじ、社会福祉事務所などと連携して対応している。
	生徒が自分自身の身体や心について の理解を深め、自己管理できる能力 をつけられるよう働きかける。	性や社会的スキルに関する知識を持ち、実際に対応できる力を身につけさせる。 講演会だけでなく、保健だよりや掲示物を通じて、生徒の意識を啓発する。 相談や支援を必要とする生徒に対して個別に粘り強く指導する。 委員会活動を充実させ、生徒が自主的に取り組む仕掛けを作る。	B	B	B	<ul style="list-style-type: none"> 養護教諭やスクールカウンセラーが対応して、具体的な生徒の相談に関わる中で、対人関係、異性との交際、友人関係の対応法などを指導している。 委員会活動は美化委員会が体育祭などで活躍したが、保健委員会は年度当初の検診での活動が中心となっている。

学校図書館	生徒の読書意欲を喚起できるような学校図書館のあり方を模索する。	「図書館まつり」等のさまざまなイベントを企画実行し、図書館を生徒にとって身近な存在にできるよう努力する。 検索・リファレンスサービス機能をより一層向上させ、利用者の利便向上を図る。 「おはよう読書」活動を本校の現状に見合った形に変え、より意義のあるものにする。 生徒が自主的に運営できるような図書委員会活動のあり方を模索する。	B			A	<ul style="list-style-type: none"> 様々なイベントを企画実行したが、一般生徒への宣伝に少し行き届かない点があった。その他については、ほぼ計画とおりに進める事ができたと考えている。 視聴覚機器については、その進化が著しく、更新が追いついていない。 団体鑑賞は、今年も生徒諸君に好評であった。
	視聴覚教育の充実を側面から支援する体制構築を進める。	視聴覚機器の更新・充実を進め、利用しやすい環境整備に努める。	B		B		
	芸術文化教育のより一層の充実を図る。	芸術文化団体鑑賞会を実施するとともに、今後のより良いあり方を検討する。	A		A		
学習環境安全管理	学習環境や生活環境を整え、生徒の美化・衛生意識を向上させる。	日常の清掃活動に取む意識を高める。 校内に姿見を設置して、自己点検する意識を育てる。 花壇を充実させ、学校に安らぎの空間を作る。	B			B	<ul style="list-style-type: none"> 清掃を重要な教育活動の一環と位置付け、トイレを中心に丁寧な監督配置を心掛けた。廊下の姿見を制服の適切な着こなしに利用する点も、一部生徒に見受けられる。 花壇の充実については、「ヒューマンリサーチシリーズ」特別授業において展開中である。
施設・設備管理	安心・安全で教育効果向上に繋がる施設・設備環境の維持・管理に努める。	生徒・教職員の情報交換連携と巡回等により破損・危険箇所の早期発見・早期対応体制を推進する。 効率的な予算執行により教育環境の改善を更に押し進める。	A		B	B	<ul style="list-style-type: none"> 破損箇所等の改修については各分掌と連携して早期の対応をほぼ実施することができた。 予算執行については各分掌にヒアリングを実施し、それに基づいた効率的な予算配分を目指すことができた。
情報・文書管理	適正文書管理による情報管理体制を推進する。	文書の保管・廃棄など校内文書の適正文書管理を通じ、より確実な学校情報の管理体制を確保する。	A		A	A	<ul style="list-style-type: none"> 校内の文書管理については、保存年限を超過した文書の確実な廃棄、校内データの持ち出し禁止やセキュリティー機能を有する定められた記憶媒体の使用等を徹底することで、教職員の意識向上を図ることができた。
修(就)学支援	修(就)学機会保障のための支援策を充実させ、保護者への情報提供を促進する。	在学中や卒業後の経済的不安を軽減し、修(就)学機会の確保を押し進めるための支援策を広く紹介することにより、希望進路の実現を援助する。	A		A	A	<ul style="list-style-type: none"> 就学支援金の受給が9割を超え、進学希望者の6割以上が大学予約奨学金を希望する状況下、各種の修(就)学に関する支援を広報し、援助することができた。

家庭・地域 社会との連携	活発な広報活動や情報発信を行うとともに、本校の特色ある様々な教育活動と未来像を発信するための企画を充実させる。	東棧だより、学校案内パンフレット、ポスター等を発行し、本校の魅力をアピールすることにより、生徒に選ばれる学校としての広報を強化する。ホームページやお知らせメールを通じて、保護者や地域への情報発信を行うとともに、その内容を、各分掌、教科等と連携を図りながら着実に進めていく。	A	A	<ul style="list-style-type: none"> ・学校紹介パンフレットの内容の更新や、学校説明会の案内、ポスターを随時作成し、配布している。また、学校説明会においては、ボランティア生徒を活用し運営を円滑に行っている。HPの更新やお知らせメールの配信等で学校行事などの提供をしている。 ・PTA活動では、広報誌の作成に関わり、近畿代表として表彰されるなど、成果を残した。社会見学や文化教養講座には、多くの参加があり、保護者間の交流を深めることができた。 ・地域の催しやボランティア参加については、副校長、生徒指導部、学年部との連携を取り積極的な参加を推進している。 各取組における写真等の記録を有効活用して、広報活動に一層役立てていきたい。
	PTA活動と連携を図り円滑な運営に寄与する。	PTA活動に積極的に関わり、社会見学、文化講座、会報誌などの取り組みを実りあるものとする。また、保護者の悩み相談など、保護者間の交流を図り、開かれたPTA活動を実施する。	A	A	
	地域に信頼される学校として、各種の地域行事、関連行事などへの積極的な参加を推進する。	地域との交流を積極的、継続的に実践し、「人間力」を育むキャリア教育の一翼を担う。また、ボランティア活動など、地域への貢献・地域に寄与する学校としての取組を充実させる。	A	A	
学 年	【第1学年】 高校生としての自覚と目標を持ち、落ち着いた学校生活を送らせる。 また、学年、学級指導を計画的に行い、自己と他者の関わりを大切に、互いに協力し合って高め合える学年づくりを目指す。	時間とルールを守り、言葉遣いや身だしなみなどを整え、基本的な生活習慣を確立させる。学習環境の整備、学習習慣の確立を図り、基礎学力を向上させる。 学級活動や面談を通じて、進路意識を育み、目的意識を持って授業や部活動に取り組ませる。 研修旅行などの学年全体での取組を通して、「思いやり」の心を行動に繋げ、互いの個性を尊重して協力し合える集団づくりを目指す。	B	B	<ul style="list-style-type: none"> ・個人面談や三者面談を通して、基本的な生活習慣や学習習慣の確立に向けて、生徒・保護者の理解を深めた。不十分な点は残るが、指導を素直に聞き入れており、今後も継続して生徒と教員の信頼関係を作り上げていきたい。文化祭では、各クラスが工夫を凝らし、練習を重ねて発表を行い、次年度への目標を持つことが出来た。今後は、研修旅行に向け、集団としての規律を確立し、助け合いの心を育成していきたい。 ・講座によっては、まだまだ改善が必要と思われるところがある。授業状況を把握し（授業状況調査実施）、担任と教科担当が連携を密にとりあい、授業規律確保から基本的な生活態度を定着させる。また、1年後の進路実現に向けて引き続き自主性を育てていきたい。 ・文化祭では演劇に取組み、各クラス素晴らしい成果を残した。個人面談・三者面談を通じて個に応じた進路指導を実践している。残りの学校行事を充実させるとともに、卒業、進路実現に向け、より一層、親身になった指導を展開していきたい。また、授業規律について課題が残るため、今後の取組を検討して実践していきたい。
	【第2学年】 学校の中核の学年としてのさらなる自覚と豊かな人間性を備えた高校生活を送らせる。また、進路指導の確立に向けて計画的な指導をする。	挨拶、言葉遣い、服装など基本的な生活習慣をさらに定着させる。 授業に集中させ、家庭学習や自学自習の習慣をつけることで、学力の向上を図る。 進路学習などを通じ、自分の将来を真剣に考え、具体的な進路目標を立てさせる。 学校行事を通して、自主的で規律ある集団をつくり、本校の中心的存在としてリーダー性を育てる。	B	B	
	【第3学年】 最終学年として自覚を持たせ、進路実現に向けて充実した高校生活を送らせる。	挨拶や言葉遣いなど、社会で必要なマナーを身につけさせる。 授業を大切に取り組ませ、学力の充実を目指す。 個人面談を密にして個に応じた進路指導を行い進路の実現を図る。 文化祭の演劇発表、自主活動の充実を努める。	B	B	
			A	A	